

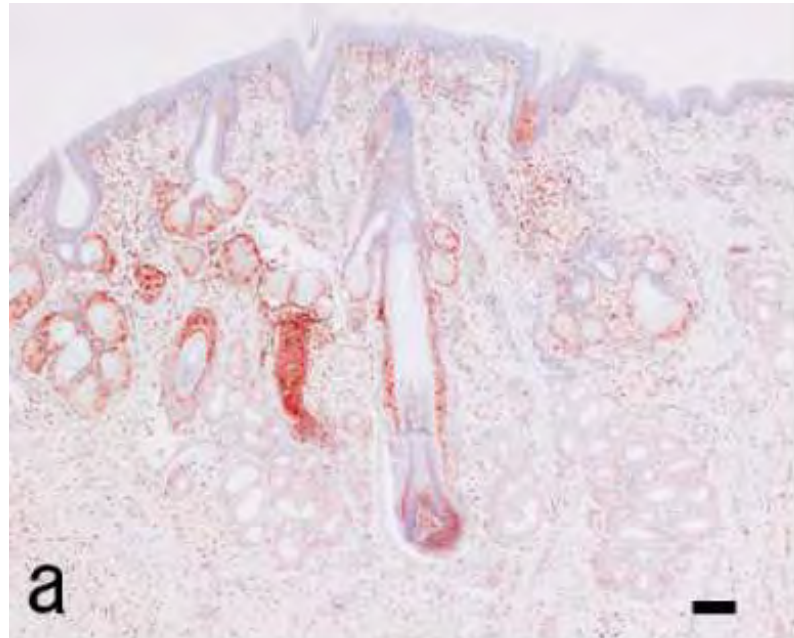
野生いのしし死亡個体の耳片を用いたCSFVおよびASFV遺伝子検出



- ・ 体表皮膚のうち耳等の腐敗や付着物（土、虫、植物等）が少ない部位を選択し、約2～5 cm四方を採取する。
- ・ 両ウイルスは耳の皮膚に広く分布するため、どの部位を採取してもかまわない。

CSF/ASF感染豚皮膚におけるウイルス抗原の分布

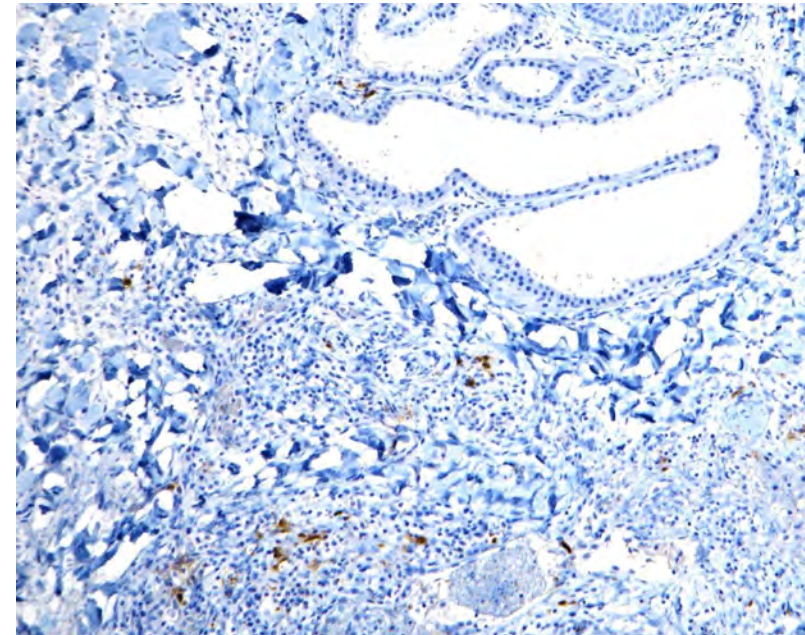
CSF感染豚皮膚の免疫組織染色像



大木ら, JVMS 2022

汗腺や毛包部にCSFV抗原(赤色)が検出された。

ASF感染豚皮膚の免疫組織染色像



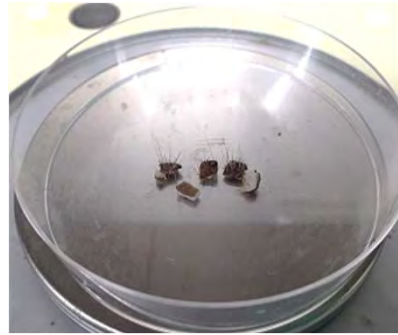
結合組織中のマクロファージにASFV抗原(茶色)が検出された。

耳片からのCSFVおよびASFV遺伝子の検出事例

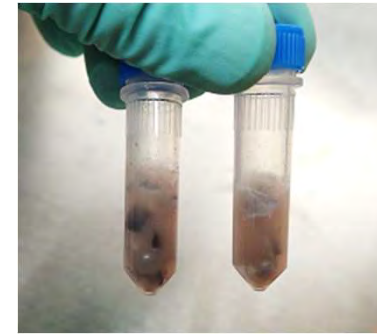
耳片乳剤の作製（細胞破碎装置を用いる場合）



(1) 皮膚を採取



(2) ハサミで細切

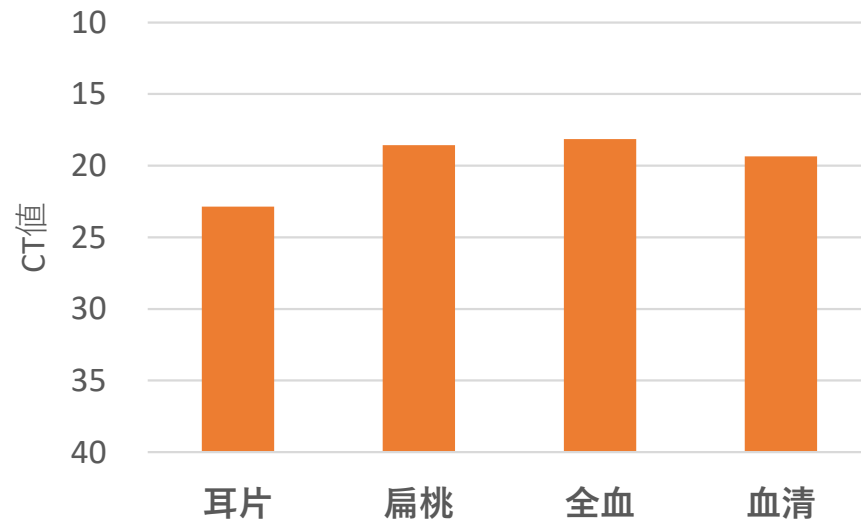


(3) 培地を加え乳剤化

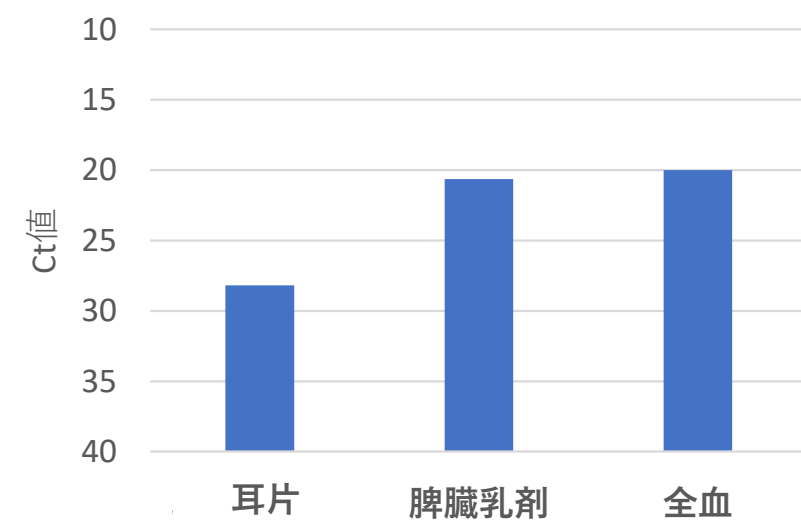


(4) 遠心上清を回収

CSF感染21日目の豚におけるCSFV遺伝子検出例



ASF感染7日目の豚におけるASFV遺伝子検出例



CSFおよびASF感染豚の耳片乳剤からウイルス遺伝子を検出することが可能である。
ただし、遺伝子検出時のCt値は全血や臓器乳剤よりも高くなることに留意。